

レタスの栽培管理について

月 旬	11			12			1			2		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育と主な作業	←→			←→								←
	は 種			定 植								収 穫

1 品種

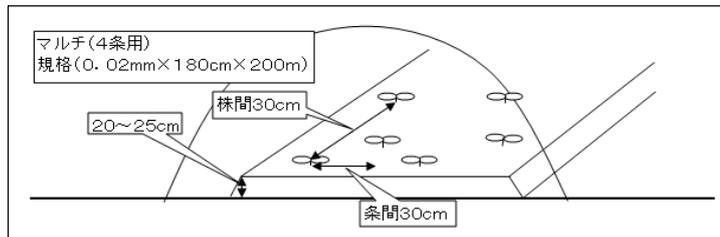
(1) 品種 ツララ等

2 育苗

- (1) 播種は200穴セルトレイ(用土:培養土)にポット1ますに1粒ずつ入れ鎮圧し、その後種子が見えるかみえない程度に覆土し、十分灌水する。芽がでるまで新聞紙で被覆して乾燥させないようにする。芽が出たら新聞紙を除去しかん水する。定植2~3日前からかん水を制御することで活着がよくなる。
- (2) 施肥管理:使用する培養土によって異なるが、通常はは種後10~15日頃に、500~1,000倍の液肥を週1~2回程度施用する。
- (3) 育苗日数:25~30日前後で、葉数3枚程度を目安とする。

3 定植

- (1) 作式:トンネル+マルチ栽培
- (2) 施肥量は10aあたり、窒素15~20kg、リン酸25~30kg、カリ15~20kgを基準とする。
全面に堆肥2t、苦土石灰100~150kgを散布する。
- (3) 栽植密度:畦幅1.8m(床幅1.5m)、株間30cm、条間30cmの4条千鳥植え



(4) 定植後管理

- ① 定植後は活着するまでかん水する。
- ② 初霜前にビニルトンネル被覆する。
- ③ 温度管理は、外葉展開期にはトンネル内で外葉をつくるため、日中のトンネル内温度を25℃くらいで管理し、結球開始期にすそ開き状態を多くするなどして低め(20℃)に管理する。

4 病虫害防除

主な病虫害は、軟腐病、腐敗病、菌核病、アブラムシ、ヨトウムシ、ネキリムシ等である。

病害は、発生してからは防除困難なため予防に努める。

- (1) 軟腐病(高温、多湿条件によって土中に存在し、傷口から進入するので、窒素過多を避け、排水対策を施し、作物に傷をつけないようにする。)
- (2) 腐敗病(凍霜害によって発病し、過湿、高温で助長するので、トンネル内の換気に留意し、ほ場の排水対策や高畦にする。)
- (3) 菌核病(土中の菌核から胞子が飛散。やや低温(20℃前後)で多湿のとき発生する。被害株はただちに処分する。)

5 低温による生育障害と対策

(1) タケノコ球

症状:葉がよじれぎみに結球したり、縦長に結球する。

発生条件:高温、多肥などで徒長した苗が、低温、乾燥、多肥あるいは肥料不足といった条件で結球した場合に多く発生し日照不足も原因の一つとなる。また密植栽培も発生が多い。

対策:健全苗の利用、保温、かん水などによって順調に結球させることが必要であり、株間を十分とることが望ましい。